

株主の皆様へ

# 株主通信 Vol.13

2013年3月期 決算号 2012年4月1日～2013年3月31日

証券コード: 4568



Daiichi-Sankyo



- P02 社長メッセージ
- P03 第3期中期経営計画
- P06 国内No.1に向けて主力製品群を拡大
- P08 2012年度決算の概要
- P09 2013年度業績予想
- P10 2012年度ハイライト

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。

# 世界の多様な医療ニーズに応え、 持続的成長を実現する



株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社の経営にご理解を賜りましてありがとうございます。

第一三共株式会社発足後、第1期(2007～2009年度)においては、統合シナジの最大化とグローバル化の加速を目指し、ランバクシーの買収など成長基盤の拡充に努めました。

第2期(2010～2012年度)においては、先進国での成長に加えインド、中国を始めとする新興国での成長を加速させるとともに、日本におけるジェネリック医薬品事業・ワクチン事業の基盤構築など、持続的成長を可能にするハイブリッドビジネスモデルの構築に取り組みでまいりました。また次代を担う大型新薬として期待する抗凝固剤エドキサバンの臨床試験が終了し、承認申請準備の段階に至りました。この様に将来に向けた成長のための基盤を拡充できた一方で、収益性の面で課題を残しました。収益性の改善は持続的成長を実現するための今後の重要な経営課題でございます。

今後数十年の長期的な視野で世界的変化を展望してみますと、健康と医療が世界各地でますます重大な社会的課題になるものと思われれます。そのような変化の中で「第一三共グループは社会的ニーズや課題を最も良く理解し、グローバルにソリューションを提供できる会社でありたい」という想いを出発点として、第3期中期経営計画(2013～2017年度)を今年3月に策定いたしました。

この第3期中期経営計画を通じて「世界の多様な医療ニーズに応え、持続的成長力を備えた Global Pharma Innovator」を目指してまいります。そして2013年度は、その初年度として重要な年になります。2012年度に引き続き増収増益を確実に達成し、また売上高1兆円超を実現し、市場競争力強化と収益最大化に取り組みでまいります。

皆さまの引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2013年6月  
代表取締役社長兼CEO

中山讓治

## 第3期中期経営計画

### 第3期中期経営計画の基本方針

#### 持続的成長(売上)の実現と 収益性(営業利益率)の改善

第3期中期経営計画での経営目標は、高血圧症治療剤オルメサルタンのパテントクリフ(特許切れに伴う売上への影響)を越え、持続的成長を実現することにあります。

これまでに構築してきた事業基盤をフルに活用して持続的成長を実現することはもとより、収益性を改善し、営業利益率を向上させることが最大の課題であると考えております。

2017年度までの5年間の年平均売上成長率は、市場成長を上回る5%以上を目指します。営業利益率は、2017年度には15%以上に回復させることを目指します。

#### 第一三共とランバクシーを 軸とするグループビジネスの 深化と成果(シナジー)創出

2013年5月に、ランバクシーの工場に関する案件に関し、米国司法省との

協議が終結いたしました。皆さまには多大なご心配をおかけいたしました。ランバクシーは今後も高い水準のコンプライアンスを遵守しつつ事業遂行していくことを、改めてお約束いたします。そのため当社は最大限の支援を行ってまいります。

2013年はFDAとの同意協定の遂行と、インドの Paonta Sahio 工場に発動されているAND問題の解決に向けて取り組みを引き続き進めてまいります。

将来に向けた潜在的な企業価値を高めるために、当社とランバクシーという車の両輪は、両社それぞれがさらなる成長を実現させるとともに、営業面や製造原価低減における協働にとどまらず、未着手の市場の開拓や新たな競争力を持つ製品の創出を含め、バリューチェーンのあらゆるプロセスにおいてシナジー創出を図ってまいります。

#### 経営目標

##### オルメサルタンのパテントクリフを越え、持続的成長を実現する

##### ● 持続的成長(売上)の実現と収益性(営業利益率)の改善

年平均売上成長率CAGR ▶ 5%以上(2012-2017年度)

2017年度営業利益率 ▶ 15%以上

ROE ▶ 10%以上

EPS ▶ 150円以上

安定的な配当と機動的な株主還元

##### ● 第一三共/ランバクシーを軸とする グループビジネスの深化と成果(シナジー)創出

主要国(日本・インド・米国)・  
新興国における成長基盤の拡充

環境変化に適応した  
グループ事業運営体制の革新

第3期中期経営計画の重点戦略

持続的成長と収益性の改善を実現するために、2013年度から2017年度まで5カ年の第3期中期経営計画において取り組む重点戦略は次の通りです。

**重点戦略1**  
イノベータータイプ医薬品の製品ポートフォリオ・研究開発パイプラインの強化

主力製品であるオルメサルタンにつきましては、競合環境が大きく変動する中で、営業面では配合剤に注力するなど、収益の最大化に努めます。

急性冠症候群治療剤プラスグレルは、欧米において、現在適応を持つPCI（経皮的冠動脈形成術）を受けたACS（急性冠症候群）患者への処方拡大を図るとともに、日本では2014年度に発売し大型製品化を目指します。

エドキサバンは、2014年度以降、世界各国で発売する計画です。ベストインクラスになり得る製品特性を示し、大型グローバル製品化を目指します。

さらにエドキサバンに続く大型新薬を生み出すべく、研究開発パイプラインの

強化に努めます。

第3期中期経営計画期間における成長ドライバーの一つは日本市場です。マリリー、ネキシウム、ランマーク、プラリアなどの製品の拡大によりグループ収益への貢献を図るとともに、国内NO.1に向けた取り組みを推進します。さらに、バイオ医薬品事業にも本格的に参入し、複数のバイオシミラー製品の発売を目指します。

製品ポートフォリオ強化のためには外部資源の獲得も重要な課題であり、積極的に取り組んでまいります。

**重点戦略2**  
多様なローカルニーズに対応した、競争力のある事業展開

持続的成長を実現する過程では、世界各国の多様なローカルニーズに対応した事業展開を進めてまいります。

ランバクシーおよび当社のASCAカンパニー（アジアおよび中南米における第一三共グループ会社）を通じて、新興国の事業拡大を図ります。

第3期中期経営計画の計数目標

第3期中期経営計画の最終年度である2017年度において、売上高1兆3000億円、営業利益2000億円、営業利益率15%以上、当期純利益1100億円を目標といたします。

売上高のうちランバクシーの貢献は40億ドル程度を期待しております。

ランバクシーの売上拡大に伴い、原価率の6ポイント程度の上昇を見込んでいます。一方で、収益性改善を実現するため、販売管理費比率を10ポイント以上低下

させることを特に重要な経営課題として取り組んでまいります。

研究開発費の効率的な運用と、研究開発の生産性向上を両立させることも目標といたします。

**重点戦略3**  
低コスト体質への転換

収益性改善という課題の達成に向け、第3期中期経営計画期間中に低コスト体質への転換を図ります。

世界各地域において、組織や要員を含む事業運営体制を環境変化に適応したものに革新してまいります。

また第一三共・ランバクシーの連携のもと、グローバルサプライチェーンを構築し、最適な生産体制を確立することにより、継続的に原価低減を推進します。

さらに事業別・地域別の収益管理を強化してまいります。



● 計数目標



● 承認取得・発売を目指すプロジェクト群

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度以降 <sup>※2</sup>
日本	デノスマブ 骨粗鬆症 ラニナミビル 予防	エドキサバン AF プラスグレル 冠動脈疾患	エドキサバン VTE レボプロキササン静注 追加適応	プラスグレル 脳血管障害 エタネルセプトBS 関節リウマチ	デノスマブ 乳癌アジュバント デノスマブ 関節リウマチ リツキシマブBS リンパ腫	癌(Oncology) CS-1008 U3-1287 CS-7017 U3-1565 PLX3397 DS-7423 DS-2248 DS-3078 DE-766 Vemurafenib (LCM <sup>※3</sup> )
米国		エドキサバン AF エドキサバン VTE			Tivantinib 肝細胞癌 DS-5565 DPNP <sup>※1</sup>	循環代謝(CV-M) CS-3150 DS-7250 DS-7309 DS-6930 DS-8500 DS-1442 Prasugrel (LCM) Edoxaban (LCM)
西欧		エドキサバン AF エドキサバン VTE			Tivantinib 肝細胞癌	フロンティア (Frontier) DS-5565 SUN13837 ASB17061 DS-8587 CS-4771 PLX5622 DS-7113 CS-0777 Denosumab (LCM)
Others	プラスグレル 冠動脈疾患(中国)			エドキサバン AF&VTE (中国・南米など)		

※1 Diabetic Peripheral Neuropathic Painの略。糖尿病性末梢神経疼痛  
 ※2 2017年度以前に承認・発売の可能性のあるプロジェクトも含む  
 ※3 Life Cycle Managementの略。適応追加等により製品価値の最大化をはかること

# 国内No.1に向けて主力製品群を拡大

## ●主力製品群

- |                          |                                     |
|--------------------------|-------------------------------------|
| 1 オルメテック・レザルタス (高血圧症治療剤) | 5 リクシアナ (抗凝固剤)                      |
| 2 メマリー (アルツハイマー型認知症治療剤)  | 6 ランマーク (癌骨転移治療剤)<br>プラリア (骨粗鬆症治療剤) |
| 3 ネキシウム (逆流性食道炎等治療剤)     | 7 テネリア<br>カナグリフロジン (2型糖尿病治療剤)       |
| 4 プラスゲレル (虚血性心疾患治療剤)     |                                     |

## …… 製品 Close Up ……

2012年4月に発売したランマーク (適応: 多発性骨髄腫による骨病変および固形癌骨転移による骨病変)、2013年6月に発売したプラリア (適応: 骨粗鬆症) は、いずれも当社が米国のアムジェン社から導入した抗体医薬品デノスマブ (遺伝子組換え) です。ここでは、デノスマブの仕組みと、ランマーク、プラリアについて、簡単にご説明します。

### ランマーク 適応 多発性骨髄腫による骨病変および固形癌骨転移による骨病変

癌が骨に転移した部位では、腫瘍と骨組織の間の相互作用によって、破骨細胞が活性化してしまいます。ランマークは、4週間に1回の皮下投与で、RANKL経路を介した破骨細胞の形成や活性化を抑制し、骨破壊に起因する病的骨折などの骨関連事象の発現を抑制します。

### プラリア 適応 骨粗鬆症

6カ月に1回の皮下投与で優れた骨折抑制効果が確認されている「プラリア」は、海外では、2010年の欧州・米国での「閉経後骨粗鬆症」適応による承認以降、世界60を超える国または地域で承認されています。

骨粗鬆症は、加齢などによって骨吸収と骨形成のバランスが崩れ、相対的に骨吸収が優位になることで生じる疾患です。骨粗鬆症による骨折は、寝たきりを含めて高齢者の生活の質を著しく低下させます。日本には現在、潜在患者を含めると約1,300万人の骨粗鬆症患者がいると推測されていますが、うち3分の1は病院には行っていないと言われております。当社は、骨粗鬆症の治療に新たな選択肢を提供することで、医療に貢献してまいります。

### 骨の仕組みとデノスマブの働き

ヒトの骨は、「リモデリング」(古い骨を壊して吸収する「骨吸収」と、その場所に新しい骨を作る「骨形成」の総称)を繰り返すことで、丈夫な骨を保っています。これが骨代謝であり、骨吸収は破骨細胞が、骨形成は骨芽細胞がそれぞれ担っています。

この骨のリモデリングに関与している物質が「RANKL (RANKリガンド)」です。RANKLが増えると破骨細胞が増え、骨の破壊が増して(=骨吸収が促進されて)しまいます。デノスマブは、RANKLを捕獲し作用しないようにする事で破骨を抑制する薬剤なのです。

## 高齢化でニーズが高まる製品のライオンナップを強化

第一三共が第2期中期経営計画期間(2010~2012年度)に発売した製品は、高血圧症治療剤レザルタス、逆流性食道炎等治療剤ネキシウム、アルツハイマー型認知症治療剤メマリーなど、いずれも高齢化が進む日本で今後ますますニーズが高まるであろう医薬品です。

第3期中期経営計画期間には、製品ライオンナップを一層強化します。

この6月には骨粗鬆症治療剤プラリアを発売いたしました。

2014年度には、外科手術後の血栓発症抑制剤リクシアナ(エドキサパン)の効能取得追加を予定しております。同年度内の発売を予定している虚血性心疾

患治療剤プラスゲレルとともに、血栓塞栓症治療の標準治療薬を狙えるポテンシャルを持っています。さらに糖尿病領域では、田辺三菱製薬株式会社が開発したテネリア(2012年度発売)に加え、2013年5月に同社が承認申請したカナグリフロジンの共同販売も開始する予定です。

### 認知症や骨粗鬆症治療では疾患啓発や地域医療連携も

これら製品群の強みを確実に処方獲得に結びつける力も、当社の特徴の一つです。私たちは、これまで培ってきた医師をはじめとするすべての医療関係者との信頼関係を一層強固にするとともに、アルツハイマー型認知症や骨粗鬆症治療などの分

野では、疾患啓発も含めた取り組みを進めることにより患者さんとそのご家族に貢献してまいります。

アルツハイマー型認知症の治療は、早期の診断と治療開始、認知症治療の専門知識を持った医師の増加が患者さんとご家族はもちろんです。高齢化が進む日本社会の課題解決につながります。当社は患者さんがセルフチェックできる「相談ノート」の活用、医師の方々への講演会、地域医療連携などに取り組んでいます。

また骨粗鬆症も、骨折を機に寝たきりになる患者さんが多いことを鑑みれば、早期治療が患者さんと社会への貢献につながることは明らかです。このほど発売したプラリアを核に、疾患啓発を含めた取り組みを強化し医療への貢献を果たしてまいります。

第3期中期経営計画期間には、フラッグシップ製品と位置づけるオルメテック、メマリー、ネキシウムの3品目を収益の柱となる製品へと育成する取り組みの強化により持続成長を図ります。さらにプラリア、プラスゲレル、リクシアナなどの新製品を急速拡大させることで、国内No.1を目指します。



専務執行役員 医薬営業本部長  
木伏良一

# 2013年度業績予想

# 2012年度決算の概要

## 財務データ(抜粋)

(単位: 億円)

	2013年度 予想	2012年度
売上高	10,800	9,979
営業利益	1,100	1,005
経常利益	1,100	991
当期純利益	680	666
研究開発費	1,870	1,830
一株当たり年間配当金	60円	60円

## 売上高

日本におけるオルメテック・レザルタス・メモリー・ネキシウムなど主力品の拡大、プラリアの新発売、ワクチン事業の拡大により、前期比821億円(8.2%)増収となる10,800億円を見込んでおります。

主要通貨の日本円への換算レートは  
1米ドル: 95円 1ユーロ: 125円 1インドルピー: 1.75円  
を前提としております。

## 営業利益

増収に加え、経費全般の抑制などにより、前期比95億円(9.4%)増益となる1,100億円を見込んでおります。

## 主要会社・主要製品別売上高

### ● 第一三共株式会社(日本)

(単位: 億円)

	2013年度 予想	2012 年度	2011 年度
オルメテック (高血圧症治療剤)	810	783	809
ロキソニン (消炎鎮痛剤)	610	596	610
ネキシウム (逆流性食道炎等治療剤)	380	216	39
メモリー (アルツハイマー型認知症治療剤)	360	238	98
クラビット (合成抗菌剤)	360	359	363
レザルタス (高血圧症治療剤)	240	169	135
メバロチン (高コレステロール血症治療剤)	230	258	331
アーチスト (高血圧・狭心症等治療剤)	220	224	245

### ● ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd.(インド)

(単位: 十億インドルピー)

	2013年度 予想	2012 年度	2011 年度
グループ売上高	約120	124	101

### ● 第一三共INC.(米国)

(単位: 百万米ドル)

	2013年度 予想	2012 年度	2011 年度
ベニカー/ベニカー HCT (高血圧症治療剤)	705	881	901
エイゾール (高血圧症治療剤)	126	179	152
トライベンゾール (高血圧症治療剤)	63	82	58
ウェルコール (高コレステロール血症・ 2型糖尿病治療剤)	484	399	340

### ● 第一三共ヨーロッパGmbH(欧州)

(単位: 百万ユーロ)

	2013年度 予想	2012 年度	2011 年度
オルメテック/ オルメテックプラス (高血圧症治療剤)	296	304	336
セビカー (高血圧症治療剤)	88	100	101
セビカー HCT (高血圧症治療剤)	56	44	31

## 財務データ(抜粋)

(単位: 億円)

	2012年度	2011年度
売上高	9,979	9,387
営業利益	1,005	982
経常利益	991	762
当期純利益	666	104
研究開発費	1,830	1,851
純資産	9,157	8,327
総資産	16,441	15,185

## 営業利益

当期の営業利益は、23億円増の1,005億円(前期比2.4%増)となりました。

当期は日本における薬価引き下げや、導入品の売上割合が増えたことによる売上原価率の上昇(対売上比率29%→31%)がありましたが、研究開発費の効率的運用や、全社的に経費コントロールおよび削減に努めたことにより、研究開発費を含む販売費および一般管理費全体で、対売上比率を前期比-3ポイントの58%に抑えることができました。

## 経常利益

当期の経常利益は229億円増の991億円(前期比30.1%増)となりました。

この主な要因は、インドルピーの対米ドルレートが安定的に推移したため、子会社であるランバクシーのデリバティブ評価損益が大幅に改善したことによるものです。

## 当期純利益

当期純利益は、562億円増の666億円(前期比541.6%増)となりました。

この主な要因は、特別損益として前期はランバクシーと米国司法省との和解費用引当金399億円を特別損失として計上していたこと、また法人税につきまして、当期は繰越欠損金解消に伴い、未実現利益にかかる税効果や試験研究費にかかる税額控除など、実効税率が大幅に減少したことによるものです。

## 売上高

2012年度の売上高は、前期比592億円(6.3%)増収の9,979億円となりました。  
日本におけるアルツハイマー型認知症治療剤メモリー、逆流性食道炎等治療剤ネキシウム、欧米における急性冠症候群治療剤ファイエント、子会社のランバクシーが寄与いたしました。

## 利益

営業利益は、増収に伴う売上総利益の増加や全社的な経費削減に努めたことなどにより、前期比23億円(2.4%)増益の1,005億円となりました。  
経常利益は、前期比299億円(30.1%)増益の991億円となりました。  
当期純利益は、前期比562億円(541.6%)増益の666億円となりました。前期はランバクシーと米国司法

## 為替レート

主要通貨の日本円への換算レート(年平均レート)は次の通りとなりました。  
1米ドル: 83.11円  
1ユーロ: 107.15円  
1インドルピー: 1.500円

省との和解費用引当金に伴う特別損失399億円を計上いたしました。

2013年  
2月14日

**独自技術を用いた  
デュシェンヌ型筋ジストロフィー核酸医薬の開発**

株式会社産業革新機構などの共同投資による新会社(株式会社Orphan Disease Treatment Institute)を設立し、新会社と共同で、当社の独自技術を用いた修飾核酸であるENAオリゴヌクレオチドを有効成分とするデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療剤の開発に着手することを発表しました。

3月16日

**国内でのプラスグレル第3相臨床試験で良好な結果を得る**

日本国内では現在、抗血小板剤プラスグレルについて、2つの大規模な第3相臨床試験を実施しております。

その一つである急性冠症候群の患者さんに対する試験において、プラスグレルは、臨床問題となる出血を増加させることなく、心血管死・非致死性心筋梗塞・非致死性虚血性脳卒中のリスクを低下させる結果を示しました。

3月25日

**骨粗鬆症治療剤「プラリア皮下注60mgシリンジ」の  
国内製造販売承認取得**

骨吸収に必須のメディエーターであるRANKLを特異的に阻害し、6カ月に1回、皮下投与する新規骨粗鬆症治療剤プラリア皮下注60mgシリンジの国内製造販売承認を取得しました。

# 2012年度ハイライト

2012年  
4月17日

**多発性骨髄腫による骨病変および固形癌骨転移による  
骨病変を効能・効果とする「ランマーク皮下注120mg」新発売**

破骨細胞の活性を抑制する世界初のヒト型抗RANKLモノクローナル抗体であるランマーク皮下注120mgを新発売しました。



4月25日

**ランバクシーによるインドにおけるマラリア治療薬「Synriam」の新発売**

インド企業初の新薬となるマラリア治療薬「Synriam」をインド国内にて新発売しました。

5月8日

**米国Coherus BioSciences社とのバイオシミラー事業に関する提携**

バイオシミラー市場への早期参入を目指して、日本・韓国・台湾におけるエタネルセプトおよびリツキシマブのバイオシミラーの事業化について、米国Coherus BioSciences社と提携することを発表しました。

7月2日

**ジャパンワクチン株式会社の事業開始**

ワクチン事業に特化した専門性の高い企業として、乳幼児から高齢者まで幅広い人々を感染症から守ることを目指して事業活動を開始しました。

9月10日

**2型糖尿病治療剤「テネリア錠20mg」新発売**

糖尿病治療への貢献を目指した戦略的提携のもと、田辺三菱製薬株式会社と共同販売を開始しました。テネリアは、24時間薬効が持続する特性を有し、1日1回の経口投与で毎食後の血糖ならびに空腹時血糖を改善する優れた効果が認められているDPP-4阻害薬です。



11月15日

**インフルエンザ予防適応でイナビルを承認申請**

インフルエンザウイルス感染症の治療薬として2010年に発売したイナビルについて、新たに、インフルエンザ予防適応での製造販売承認申請を行いました。

本効能の承認取得後には、インフルエンザ感染症に関わる新たな選択肢が増え、患者さんと社会に貢献できるものと期待しております。

## 企業インフォメーション

**会社概要**

(2013年3月31日現在)

商号 第一三共株式会社  
(DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)  
資本金 500億円  
事業内容 医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入  
従業員数 32,229名(連結)

**役員**

(2013年6月21日現在)

**取締役**

代表取締役会長 庄田 隆  
代表取締役社長兼CEO 中山 譲治  
取締役 荻田 健  
取締役 廣川 和憲  
取締役 佐藤 雄紀  
取締役 坂井 学  
社外取締役 平林 博  
社外取締役 石原 邦夫  
社外取締役 金澤 一郎  
社外取締役 杉山 清次

**監査役**

常勤監査役 小池 和夫  
常勤監査役 千葉 崇  
社外監査役 山田 昭雄  
社外監査役 石川 重明

**株式情報**

(2013年3月31日現在)

発行済株式の総数 709,011,343株

株主数 126,309名

**株主名簿管理人連絡先**

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL.0120-232-711 (通話料無料)

**所有者別株式分布状況**

	持株数(千株)	持株比率(%)
政府及び地方公共団体	0	0.00
金融機関	287,736	40.58
金融商品取引業者	24,317	3.43
その他の法人	45,733	6.45
外国法人等	203,732	28.73
個人その他	142,426	20.09
自己株式	5,065	0.71



株主・投資家の皆さまへのコンテンツのご紹介

株主・投資家の皆さまに、第一三共グループをご理解いただくための、「決算情報」「説明会資料」「財務ハイライト」「株式情報」「株主還元・配当」「株主総会情報」などを掲載しています。



株主の皆さまの声をお聞かせください

右記URLにアクセスいただき、「株主さまアンケート」のリンクよりアンケートサイトに入り、ご回答ください。(所要時間は5分程度です。)

[http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/information/business\\_report/index.html](http://www.daiichisankyo.co.jp/ir/information/business_report/index.html)

※ ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

イタタ

を、ガマンしていませんか?

ロキソニン®S は 医療用成分配合

1回1錠<sup>®</sup> で、すばやく効きます。

頭痛・生理痛に  
ロキソニン®S  
第1類医薬品

LOXONIN S  
第1類医薬品  
痛みを速く強く  
ロキソニンS 頭痛・生理痛  
[ロキソプロフェンナトリウム水和物]  
12歳以上

この医薬品は、薬剤師から説明を受け、「使用上の注意」をよく読んでお使い下さい。アレルギー体質の方は、必ずご相談下さい。  
本薬についてのお問い合わせは【お客様相談室】 ☎電話 03-5205-8331 ☐受付時間 9:00~17:00(土、日、祝日を除く)  
www.loxonin-s.jp ロキソニンS 第1類1錠 成人(15歳以上)

モバサイトはこちら  
QRコード

第一三共ヘルスケア

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。

第一三共株式会社

お問い合わせ先 コーポレートコミュニケーション部

住所 〒103-8426 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号

WEB <http://www.daiichisankyo.co.jp/>

TEL 03-6225-1125

FAX 03-6225-1132